

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102948
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきの里
所在地	愛媛県松山市古川北1丁目25-24
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 1

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 7月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人なので、医療と介護の連携がとれています。元気で安心した生活が続けられるように支援するため、入居者の健康状態を毎日詳細に報告し、早期対応や予防ができています。また、生活リハビリだけでなく、機械を利用したパワーリハビリにも力を入れ、下肢筋力を鍛えることにより、転倒予防につなげる事ができています。恒例行事においては、年4回家族と一緒に楽しむ事が出来るような機会を作っています。また、地域の子供達による獅子舞にも来てもらえるような関係が10年以上続いています。地域の拠点となれるように、年2回地域フォーラムの開催も続けており、介護予防を目的とした体力測定、リハビリ体操や災害時の対応についてなどの情報を提供することで、地域の中で役割を果たせるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体として、介護と医療の連携のもと、利用者が健康で安心して生活できるよう支援している。「一人ひとりの個性を生かしお互いに笑って日々が過ごせるような安全で快適なグループホーム作りを目指します」という理念を掲げ、アイデア豊富な管理者を軸に、職員の絶妙のチームケアで利用者の笑顔を引出している。良好な家族関係を構築し、他事業所と合同で開催する運動会やホテルで行う家族会等に多くの家族が参加して、協力しながら利用者を支援している。また、地域貢献として開催されている地域フォーラムは好評を得ており、地域に浸透し、信頼されている。職員は、主体的に研修に取り組み、サービス向上のため日々研鑽を積んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 2F

記入者(管理者)

氏 名 岡 美子

評価完了日 平成 28 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 母体が医療機関ということもあり、介護職員であっても医療の知識を身につけ、介護と医療の連携がスムーズに取れるように努力しています。	
			(外部評価) 法人理念を受け、「一人ひとりの個性を生かしお互いに笑って日々が過ごせるような安全で快適なグループホーム作りを目指します」という事業所独自の理念を作成して、アイディア豊富で目配りや気配り、心配りができる管理者を軸に、利用者一人ひとりの気持ちを大切に実践につなげている。24時間医療体制が整備され、職員は医療的知識の研鑽を積みながら、予防を重視したケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所のお店とは、定期的にご利用することで顔なじみになり、気軽に話かけてもらえています。また、地域フォーラムや恒例行事に参加してもらえるようにチラシを配布。地方祭では、地域の子供達による獅子舞を楽しむ機会があります。	
			(外部評価) 法人全体で地域に貢献できることはないか、認知症の理解を広めるために何が発信できるかを考えながら、年2回地域フォーラムを開催しており、好評を得ている。近所のパン屋や和菓子店へは定期的買い物に行き、顔なじみになっている。隣の中華料理店へは大皿料理の配達を頼み、食卓に並べることもあり利用者に人気である。また、NPO団体に敷地内建物の一室を事務所として提供し、運営に協力してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 年2回の地域フォーラムを開催、介護予防や認知症対応、また看取りに関する事などワンポイントレッスン、アドバイスできる機会を設けています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度の運営推進開催時に、市や他の事業所、地域の民生委員さん、入居者の家族さんなど様々な立場での意見を聞く機会あり、サービス向上につながる努力しています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、NPO職員、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、テーマを決めて学習会や避難訓練を実施している。看取りやマイナンバー制度について等のテーマは、管理者を中心に職員がミーティングで話し合っている。参加者と一緒に避難訓練を実施することで、家族や地域との関係を一層深め、実行性のある訓練になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の際に、意見交換や情報交換できています。また、必要に応じてこちらから出向きアドバイスを頂いています。	
			(外部評価) 市担当課職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、助言等を行っている。事業所に空室ができると、地域包括支援センターに報告し、利用希望について連携している。市生活福祉課職員とはその都度連絡や報告を行い、協力して利用者を支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会にて、身体拘束、虐待について正しい知識を学ぶ機会を定期的に作り、実践しています。また、ベット柵については、家族の同意を得た上で転倒、転落予防を目的として使用。徘徊や帰宅願望の強い方への対応は、玄関チャイムや常に目を離さないことで対応しています。	
			(外部評価) 年1回法人内研修のテーマとして取り上げ、身体拘束をしないケアについて正しく理解して取り組んでいる。日中玄関は施錠しておらず、ユニット入り口にセンサーを設置して職員が見守りをしている。帰宅願望の強い利用者は、夕方になると娘さんが犬を連れて一緒に散歩に連れ出してくれるなど、家族の協力を得ている。夜間転倒の危険がある利用者は、ベッド柵や布団に鈴をつけて見守り、事故防止に役立っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会にて定期的に学ぶ機会を作り、身体的な虐待だけでなく、言葉による虐待についても常に意識し、職員間で注意し合うことができるよう努力しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修に参加し、学んでいます。また、運営推進会議の際に学んできたことを報告する機会を設けています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に十分な説明できる時間を作り、理解、納得を得てサイン、印を頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ケアプラン作成時には、家族の意向、要望を聞くと共に、ケアカンファレンスへの参加を声掛けしています。また、説明時にもその機会を設け、対応しています。 (外部評価) 家族面会時に利用者の現状を報告し、意見や要望を聞くよう努めている。家族が要望を言いやすい雰囲気づくりを心がけ、意見を言ってもらえていることを管理者はありがたく受け止め、運営に反映させている。ケア方針についても率直に家族と話し合い、家族の協力を得ながら行うことで信頼関係を築いている。運動会やそうめん流し、家族会等に多くの家族が参加しており、職員と家族が協働で利用者の支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング時やスタッフ会議にて話合う機会を設け、改善に努めています。 (外部評価) 職員は困ったことはその都度相談し、管理者やユニットリーダーと意思疎通を図りながらケアに反映させている。また、毎月開催されるスタッフ会議で意見や提案を出すことができている。勤務体制についても家庭の事情を考慮してもらい、お互いさまという考え方で、職員が協力しながら安心して勤務できると感じている。また、年間研修計画は管理者と職員で話し合って決め、職員が講師を務める等主体的に取り組み、成果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価を行い、それを元に個々に面談をし、努力や実績を評価しています。また、その際に職場環境、条件について指摘ある場合は、改善に向けて努力しています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回、自分達が勉強してきたことを発表する形での勉強会を行っています。また、個々に見合った研修に参加できるよう配慮しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県の地域密着型サービス協会に加入しています。また、石井・久谷地区の協会にも加入。研修会や情報交換だけでなく、お互いの行事に参加し合うなど質の向上に取り組んでいます。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 必ず、事前見学する機会をもっています。見学が困難な方は、こちらから面会に行き、本人の思いを組み、不安を改善していけるように努力しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前見学時や、面会時に家族の意見、意向、要望を聞き暫定ケア プラン作成。家族にその内容を説明、同意を得てからのプラン開 始することで、不安をより少なくしていくように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 事前情報から、スタッフ会議にて話し合い、暫定ケアプラン作成、 家族には、プランを説明、同意を得た上で、即必要としている支 援を行っています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 職員に依存せず、できることは多少時間かかっても自分でする、 出来ないことには手を貸す、生活する上で助け合うという関係作 りに努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居後、家族が疎遠にならないよう定期状態報告をし、現状把握 してもらえるように努力しています。。また、家族は、預けっぱ なしではなく、職員と一緒に本人を支えていくという関係作りに 努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) いつでも電話を自由に使用できるようにしています。また、面会 時には、忘れてしまっても会話が成り立つように職員が間に 入り関係維持に努めています。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、家族や知人、友人の面会も多い。家族 が付き添って外出する際は、利用者は化粧やおしゃれをして家族 の迎えを待っている。職員は、ヘルパー資格を持つ美容師のいる 馴染みの美容室に付き添うなど、利用者が笑顔になることを支援 している。また、近くのパン屋や和菓子店に頻繁に買い物に行 き、顔馴染みの関係になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の性格や好み、個性を把握し、円滑にコミュニケーションが取れ、意思疎通が図れるように努めています。また、レクリエーションで競い合ったり、協力したり、お互いに助け合いの気持ちがもてるよう努力しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用期間中にしっかりと信頼関係を作っておくことで、終了後に相談をうけることもあります。また、地域フォーラムの案内をすることで関係がとぎれないように努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 認知症の進行により、会話できなくなると、表情や目での訴えを理解するように努めています。また、自己主張できる方より、出来ない方への配慮をしたり、お互いにストレスを抱えてしまわないよう臨機応変な対応をしています。	
			(外部評価) 管理者は、利用者をじっくり見ていると「うれしい」「嫌」「困っている」など表情から察することができ伝わってくると言い、ちょっとした会話の中から利用者の希望を発見してその実現に努めている。一人ひとりに合った声かけを行い、顔色や表現により把握している。家族が「〇〇と思っているのでは？」とアドバイスしてくれることもある。職員は、言葉少ない利用者が後回しにならないよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) レクリエーションの中に昔話や自慢話できる機会をつくり把握に努めています。また、職員は、アセスメントシートを参考にし、時代背景を学び、忘れてしまっていることが思い出せるような会話ができるように努力しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 正確な記録、申し送りにより情報を共有し、ケアを一定化できるように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月モニタリングを行っています。改善が必要な時には、その内容に応じて必要な人材（医師、看護師、理学療法士）にも相談、意見やアドバイスを得た上でケアプランを作成しています。 (外部評価) 介護計画は家族が見てわかりやすく、信頼してもらえる内容になるよう考慮して作成している。毎月行われるスタッフ会議で職員が話し合ってモニタリングを実施、3か月に1回、状態の変化がある場合はその都度、介護計画の見直しを行っている。見直しの際はできる限り家族にも参加してもらって、意見や要望を聞くように努めている。県外に在住する家族の場合は、帰省時に合わせて話し合っている。また、母体診療所の職員にも参加してもらい、多面的な意見を反映して介護計画を作成し、実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は大事な仕事。職員は交代勤務であるため、正確な申し送りと、記録から情報収集し、一定化したケアを提供できるよう努力しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内のサービスは、グループホームだけでないので、その人に合った最適なサービスが受けられるよう配慮しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所のパン屋さん、和菓子屋さん、スーパーにでかける機会あり。また、地域祭りでは、お神輿や獅子舞に入ってもらうことを楽しみにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は、24時間365日連絡が取れ、指示がもらえる 関係にあり、毎日入居者の健康状態を報告しています。緊急時 には医師の指示のもと、職員が同行し適切な処置、治療を受けられ る体制にあります。 (外部評価) 母体診療所の医師が、全ての利用者のかかりつけ医となってい る。職員が付き添って診療所を受診し、定期的に検査や健康管理 を行い、結果を家族に報告して共有している。泌尿器科や皮膚科 等の専門科は、かかりつけ医の紹介により家族が付き添って受診 している。職員は医療的知識の習得に努め、発症の原因を追究し て改善し、重度化や再発の予防に努めている。来訪者の手洗いや うがいもきちんと実行され、感染症の予防にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 入居者の健康状態を、毎日定時報告し、24時間365日対応し てもらえる体制にある。また、週1回ベテルの訪問看護支援体制 もできています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、必ず職員が同行し、受け入れ先の病院への申し送り をしています。入院中には、職員が定期的に面会に行くことで本 人、家族を支え、早期退院できるように支援しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家族には重度化した場合、医療連携体制加算について説 明、同意書にサイン、印を頂いている。また、看取りは、家族と のチームワークケアでもあることも十分説明、理解を得て体制を 整えるとともに、職員間でも意思確認し、勉強会のテーマにも取 り上げ法人全体でとりくみます。 (外部評価) 事業所では、今までに数名の看取りを行った経験がある。昨年 度、職員が話し合って看取り指針を見直し、より充実した内容で 誰が読んでもわかり易く、丁寧な心遣いがみられるものになって いる。入居時に終末期ケアについて本人と家族に説明し、意向の 確認を行っている。状態の変化に応じて医師が病状や治療方針を 説明して話し合い、家族の協力を得ながらチームで支援してい る。24時間医療体制が整備されており、職員に安心感がある。 また、毎年内部研修を行い研鑽に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体である椿クリニックの医師、看護師に直接指導を受けています。また、その時々に応じて指導が受けられる体制にあります。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) すべての災害時対応マニュアルを作成しています。定期的に消防署立ち合いの元で、地域の方に参加を呼びかけ火災、地震を想定した避難訓練を行っています。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと、日中と夜間想定で避難訓練を実施している。夜間想定は、夜勤をする職員が順番で実施し、対応手順の確認をしている。2階から階下へは布団で包み込み、非常階段を降ろす実践的な訓練を行っている。運営推進会議で避難訓練を行い、家族や近所の住民、民生委員が参加しているが、地元消防団は時間的に難しい現状があり、事業所内部を見てもらっている。水や缶詰、菓子など備蓄品を用意し、定期的に交換している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者さんのレベルに合わせて、ノックや声掛けをして入室するようにしています。また、できる方とは一緒に片付け、掃除を行っています。その際には、必ず視線を合わせて本人と意思確認し、かける言葉にも配慮しています。 (外部評価) 各居室に入る時は、ノックが聞こえにくい利用者には「入りますよ」と声かけをしている。トイレ誘導を行う際は近くで視線を合わせて話しかけ、利用者の誇りを傷つけないよう配慮している。また、居室やトイレ・風呂場の入り口に長いのれんをつるし、プライバシーの確保に努めている。呼称はさんづけで呼ぶようにし、職員は丁寧な言葉遣いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員が、入居者さんの思いを聞き出せるような会話ができるよう指導しています。また、言葉に出来ない入居さんの思いに気づき、組み取って対応できるように努力しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合優先になりがちだが、買い物に出かけたり、気分転換兼ねて散歩に出かけたり、入居者さん主体での生活が送れるように努力しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) こまめに洗濯し、清潔な衣類を着用しています。また、毎日の洋服の組み合わせに気をつけたり、定期的に美容室に出かけています。外出が困難な方へは、職員が散髪することで対応しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者さんが作れるメニューを取り入れて、一緒に作っています。季節メニューや誕生日メニュー、行事メニュー、入居者さんからのリクエストメニューを作成し、毎日の食事に変化をつけながら、食事が楽しみとなるように工夫しています。また、食事形態は、ミキサー食、刻み等、個々に合わせた物を提供しています。 (外部評価) 献立は職員が交代で立て、法人の栄養士にチェックしてもらっている。食材の配達はあるが、週2回は利用者と共に近くの商店に買い物に行き、調理は各ユニットで調理専任の職員が行っている。利用者とゲームをしながら好物を聞き出す工夫をして、献立に反映させている。利用者は、玉ねぎやジャガイモの皮むきの手伝いなど、できることを手伝い、職員も共に食卓を囲んでいる。誕生日には希望する料理と手作りのケーキでお祝いし、正月やひな祭り、花見、敬老の日、クリスマス等は特別な行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) メニューについては、入居者さんの意見も取れ入れ、栄養バランスや食べやすい物を考慮して作成しています。また、水分摂取量をチェックし、一日のトータル量を一定に保てるように支援しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 24時間シートにチェック欄を作成しサインしています。毎食後、必ず口腔ケアを行って、義歯の有無、自歯がそろっているかどうかを確認し、口腔内の清潔が維持できるように支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、時間やその人の行動から予測して、トイレ誘導することで、尿失禁をなくし、パットの使用量を減らす努力をしています。 (外部評価) 生きる意欲や自信の回復のために、おむつの使用を減らす工夫や排泄の自立にむけた支援を行っている。一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中はほとんどの利用者が布パンツやパットで過ごしている。夜間のみ紙おむつを使用する利用者も、排便はトイレでできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状態に合わせて、飲食物での調整（バナナ、乳製品、水分、センナ茶）をしています。また、排便を促すために、毎朝定時のトイレ誘導、腹部マッサージを行い、一日の活動量も考慮しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴剤を使用、毎日入浴できる体制にあります。頑固に入浴を拒否される方もあるが、家族の協力を得て入浴できるよう努力しています。 (外部評価) 一般家庭浴槽に週2～3回入浴することができる。毎日入浴を希望する利用者は毎日入浴できるよう支援している。身体機能に応じて、福祉用具を活用して安全に入浴できるよう配慮している。浴槽への移動が困難な利用者用に座シャワーを設備しているが、職員はできるだけ利用者に湯船に浸かってもらいたいと二人体制で介助している。ゆずや青りんご、バラ、桃の香りなどの入浴剤を使って、楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日、その時々に合わせての休息時間や就寝時間に配慮しています。また、入居時に服用していた睡眠導入剤や睡眠薬を服用中止できるよう日中の過ごし方を考え対応しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日の定期薬は、日付け、名前を記入し、服薬前には必ず職員間で声掛け合っています。また、誤薬を予防するために、本人確認の声掛けをしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 月1回の誕生会、音楽療法の他、恒例行事には、家族と共に参加できる機会を作っています。その他、おやつ作り、食事作り、学習療法、レクリエーションなど個々に合わせて楽しい時間を過ごせるように支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のパン屋さん、和菓子屋さん、スーパーを利用、顔なじみとなり声掛けてもらっています。また、公園へと散歩に出かけることで、公園を利用している子供達とのふれあいを楽しみにしています。家族の協力を得られる方は、食事や買い物に出かけています。 (外部評価) 近所にはコンビニやスーパー、飲食店、パン屋、和菓子店、薬局と様々な商店が立ち並ぶ環境に恵まれている。職員はなるべく外出の機会を増やしたいと、少量でも毎日のように買い物に出かけ、天気の良い日は近くの公園を散歩している。運動会は坊ちゃんスタジアムで、家族会は市内のホテルにおしゃれをして出かける等、利用者は特別な外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症状のある方が入居されているため、物取られ妄想やどこに置いたか忘れてのトラブルが起きてくる。そのため、家族、本人に説明、了解を頂いた上で預かり管理しています。出かけた際には、本人が自分の財布から支払う事ができるように支援をしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は自由に使えるようにしています。かけたいが使用方法が分からない方には、職員が対応し話が出来るように支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 出窓には、鉢植えを置き、リビングの壁画は、毎月張り替えるなど、季節がわかるように配慮しています。リビングのテーブルの脚に気温計を設置、入居者さんの座る場所の環境をチェックし適温で居心地よくすごせるように配慮しています。また、居室は風通しや目隠し目的でのれんを使用したり、ベットの位置を動かすなど臨機応変な対応しています。 (外部評価) 二方を窓に囲まれた明るいリビングにはテーブル席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。利用者が歩きやすいように配慮し、季節毎にレイアウトを変えるなど日差しや安全の工夫が見られる。廊下の壁面は運動会やもちつき、そうめん流し等の行事写真や、職員が工夫して作った昔話の絵が飾られており、利用者は物語を思い出しながら音読をしている。毎年鈴虫の贈り物があり、利用者は楽しみながら世話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) お互いに自分の居場所が決まっているが、その時々で柔軟な対応しています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 以前から使用していた物を持ち込んでいただいています。また、定期的にシーツを交換、布団を干したりして心地よく過ごせるように努めています。 (外部評価) 居室はエアコンと電動ベッド、洗面所、クローゼットが備えつけられており、温度湿度計があり個別に温度調整を行なっている。また、一人ひとり異なる表札が掛けられ、日中ドアを開けている利用者の居室は暖簾をかけてプライバシーに配慮している。クローゼットが広く、寝具を始め多くの物が収納できるため、居室内はすっきりとしている。馴染みの家具を持ち込み、孫から届いた誕生日プレゼントを飾っている居室もあり、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者さんが理解しやすいように、大きく書いて表示したり、わかりやすいところに置いたり、環境整備に心掛け安全で快適な生活が送れるように努めています。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102948
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきの里
所在地	愛媛県松山市古川北1丁目25-24
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 1

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 7月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関なので、介護と医療の連携が取れています。元気で安心した生活を続けられるように支援するため、入居者の健康状態を毎日詳細に報告し、早期対応と予防ができています。また、生活リハビリだけでなく、機械を利用したパワーリハビリにも力を入れ、下肢筋力を鍛えることにより、転倒予防につなげる事ができています。恒例行事においては、年4回家族と一緒に楽しむ事ができるような機会を作っています。また、地域の子供達による獅子舞にも来てもらえるような関係が10年以上続いています。地域の拠点となれるように年2回の地域フォーラムの開催の続けており、介護予防を目的とした体力測定、リハビリ体操や災害時の対応についてなどの情報を提供することで地域の中での役割を果たせるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体として、介護と医療の連携のもと、利用者が健康で安心して生活できるよう支援している。「一人ひとりの個性を生かしお互いに笑って日々が過ごせるような安全で快適なグループホーム作りを目指します」という理念を掲げ、アイデア豊富な管理者を軸に、職員の絶妙のチームケアで利用者の笑顔を引出している。良好な家族関係を構築し、他事業所と合同で開催する運動会やホテルで行う家族会等に多くの家族が参加して、協力しながら利用者を支援している。また、地域貢献として開催されている地域フォーラムは好評を得ており、地域に浸透し、信頼されている。職員は、主体的に研修に取り組み、サービス向上のため日々研鑽を積んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) 1 F

記入者(管理者)

氏 名 岡 美子

評価完了日 平成 28 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 母体が医療機関ということで、医療と介護の連携を基本にしているため、介護職員も医療の知識を身につけられるようにサポートしてもらいながら、日々のケアにつなげていけるよう努力しています。 (外部評価) 法人理念を受け、「一人ひとりの個性を生かしお互いに笑って日々が過ごせるような安全で快適なグループホーム作りを目指します」という事業所独自の理念を作成して、アイディア豊富で目配りや気配り、心配りができる管理者を軸に、利用者一人ひとりの気持ちを大切に実践につなげている。24時間医療体制が整備され、職員は医療的知識の研鑽を積みながら、予防を重視したケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 法人全体で年2回の地域フォーラム開催を続けており、地域や家族との交流を深める努力をしています。また、事業所独自のイベントには、近隣の方々にも参加してもらえるように呼びかけることで、年々参加が増えてきています。 (外部評価) 法人全体で地域に貢献できることはないか、認知症の理解を広めるために何が発信できるかを考えながら、年2回地域フォーラムを開催しており、好評を得ている。近所のパン屋や和菓子店へは定期的に買い物に行き、顔なじみになっている。隣の中華料理店へは大皿料理の配達を頼み、食卓に並べることもあり利用者に人気である。また、NPO団体に敷地内建物の一室を事務所として提供し、運営に協力してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 年2回の地域フォーラムを開催、介護予防に力を入れるだけでなく、認知症に対する理解や対応、支援の方法など問い合わせや意見交換を行い、事業所として役立てる機会を作っています。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 年6回運営推進会議の開催を続けていることで、地域の民生委員さんや役員さんとサービス向上に向けての率直な意見、改善点などについて話し合う事ができており、実行できるよう努力しています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、NPO職員、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、テーマを決めて学習会や避難訓練を実施している。看取りやマイナンバー制度について等のテーマは、管理者を中心に職員がミーティングで話し合って決めている。参加者と一緒に避難訓練を実施することで、家族や地域との関係を一層深め、実行性のある訓練になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域フォーラムの内容に応じて、資料や情報提供してもらったり、 担当者に来てもらい説明して頂いたりと協力関係を築いています。	
			(外部評価) 市担当課職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、助 言等を行っている。事業所に空室ができると、地域包括支援セン ターに報告し、利用希望について連携している。市生活福祉課職員 とはその都度連絡や報告を行い、協力して利用者を支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が、正しく学べる機会を設け理解を深める努力をしていま す。ベット柵については、必要とする家族と十分に話し合い、同意書 にサインを頂いてから使用しています。また、チャイムや鈴を利用 し、施錠しないで安全に暮らせるケアを実践しています。	
			(外部評価) 年1回法人内研修のテーマとして取り上げ、身体拘束をしないケア について正しく理解して取り組んでいる。日中玄関は施錠しておら ず、ユニット入り口にセンサーを設置して職員が見守りをしてい る。帰宅願望の強い利用者は、夕方になると娘さんが犬を連れて一 緒に散歩に連れ出してくれるなど、家族の協力を得ている。夜間転 倒の危険がある利用者は、ベッド柵や布団に鈴をつけて見守り、事 故防止に役立っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 正しく学ぶ機会を作っています。身体的な虐待だけでなく、言葉や態度での虐待がないよう職員がお互いに注意できるように取り組んで虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加したり、法人内での勉強会にて取り上げ、職員全員が理解し、説明できるように努力しています。また必要と思われる家族には活用できるように支援しています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 必ず説明する時間を十分にとり、理解し納得頂いてのサインをいただいています。後からの疑問や不安にも適時対応しています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に必ず時間を取り、近況報告すると共に、家族の要望や意見を聞く機会をもっています。遠距離の家族については、定期的にFAX、電話で近況報告することで信頼関係を作り、早期対応、改善に努めています。 (外部評価) 家族面会時に利用者の現状を報告し、意見や要望を聞くよう努めている。家族が要望を言いやすい雰囲気づくりを心がけ、意見を言ってもらえていることを管理者はありがたく受け止め、運営に反映させている。ケア方針についても率直に家族と話し合い、家族の協力を得ながら行うことで信頼関係を築いている。運動会やそうめん流し、家族会等に多くの家族が参加しており、職員と家族が協働で利用者の支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のスタッフ会議の際や、勉強会にて話合える機会を作っています。また、その時々で対応策を講じて改善に努めています。 (外部評価) 職員は困ったことはその都度相談し、管理者やユニットリーダーと意思疎通を図りながらケアに反映させている。また、毎月開催されるスタッフ会議で意見や提案を出すことができている。勤務体制についても家庭の事情を考慮してもらい、お互いさまという考え方で、職員が協力しながら安心して勤務できると感じている。また、年間研修計画は管理者と職員で話し合って決め、職員が講師を務める等主体的に取り組み、成果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 全職員が自己評価を行ったり、面談を行うなど職場環境の改善や整備に努めています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回の法人内の勉強会にて、現場で苦慮していることについてのワンポイントレッスンやアドバイスができる機会を作っています。また、お互いに勉強してきたことを発表したり、法人外研修の内容を報告し学べる機会も設けています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会に加入するだけでなく、石井・久谷地区のグループホーム連絡協議会にも加入。研修だけでなく、意見交換やお互いの行事に参加したりする機会を作っています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族、本人に事前見学をしていただいたり、こちらから訪問したり、面会に行くなど話合いの場が持てる機会を必ず作っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に本人、家族の意向や要望を聞き、暫定ケアプランを作成、 入居時には説明し確認、同意を得るようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 事前情報を元にアセスメント実施、スタッフ会議を行い必要な支援 について話合っています。また、必要に応じて医師、看護師、理学 療法士の意見やアドバイスを受けてケアプランを作成。本人、家族 に説明し、同意を頂けるように努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 入居してしまうと、職員に依存して何もしなくなるが多いた め、入居者さんには、常に自分でできる事は自分ですることを声掛 け、出来ないことを協力して達成していく関係作りを目指していま す。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 全入居者の家族に対して、毎月定期状態報告を行うことで離れてい ても暮らしぶりや体調について把握できるように支援し、本人の精 神面を支えてもらえるよう努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 電話したり、手紙を書いたりできるように支援しています。また、 家族の協力を得て自宅への帰宅、お墓参り、外食などに出かけた り、近所のお店を利用して楽しむ時間を大事にしています。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、家族や知人、友人の面会も多い。家族が 付き添って外出する際は、利用者は化粧やおしゃれをして家族の迎 えを待っている。職員は、ヘルパー資格を持つ美容師のいる馴染 みの美容室に付き添うなど、利用者が笑顔になることを支援してい る。また、近くのパン屋や和菓子店に頻繁に買い物に行き、顔馴染 みの関係になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの個性を把握し、お互いに助け合えるような雰囲気作りをしています。居室に閉じこもらず、レクリエーションやリハビリ体操への参加を声掛けしたり、コミュニケーションが取れるように職員が会話をつなぐよう努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、地域フォーラムへの参加を声掛けしたり、恒例行事の案内を続けていくことで気軽に相談できるような関係作りに努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者さんが、個々に安全で快適な生活が送れるように配慮しています。すでに生活している方の自己優先的な主張や新しく入居された方の遠慮がちな思いに対して臨機応変な対応することで、お互いのストレスとならないように努めています。 (外部評価) 管理者は、利用者をじっくり見ていると「うれしい」「嫌」「困っている」など表情から察することができ伝わってくると言い、ちょっとした会話の中から利用者の希望を発見してその実現に努めている。一人ひとりに合った声かけを行い、顔色や表現により把握している。家族が「〇〇と思っているのでは？」とアドバイスしてくれることもある。職員は、言葉少ない利用者が後回しにならないよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートの情報だけでなく、日常の会話の中からもわかることは記録し、把握できるように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 統一したケアが提供できるように、職員間の確実な申し送り、正確な記録を徹底、現状把握に努めています。また、不明な事はその都度確認しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月定期状態報告を行う際に、家族の意向、要望を確認しています。健康状態の変化や問題の生じた場合には、速やかに家族に報告するとともに、スタッフ会議を行いケアプラン変更しています。また、必要に応じて医師、看護師、理学療法士に相談した上でケアプランを作成、家族に説明、同意を頂いています。 (外部評価) 介護計画は家族が見てわかりやすく、信頼してもらえる内容になるよう考慮して作成している。毎月行われるスタッフ会議で職員が話し合ってモニタリングを実施、3か月に1回、状態の変化がある場合はその都度、介護計画の見直しを行っている。見直しの際はできる限り家族にも参加してもらって、意見や要望を聞くように努めている。県外に在住する家族の場合は、帰省時に合わせて話し合っている。また、母体診療所の職員にも参加してもらい、多面的な意見を反映して介護計画を作成し、実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録から細やかな情報を得ることができるため、言動について正確に記載するよう努めています。また、申し送りにて、情報を確認、サービスの一定化を図っています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) よりよいサービスが提供できるよう臨機応変な対応に努めています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣のお店を利用することで顔なじみとなり、声掛けてもらっています。また、毎年地域のお祭りには、地域の子供達による獅子舞を楽しみにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医には、毎日入居者全員の健康状態を報告しています。 緊急時には、職員が同行し適切な医療が受けられる体制にありま す。また、365日24時間連絡、相談できる体制にて支えても らっています。 (外部評価) 母体診療所の医師が、全ての利用者のかかりつけ医となっている。 職員が付き添って診療所を受診し、定期的に検査や健康管理を行 い、結果を家族に報告して共有している。泌尿器科や皮膚科等の専 門科は、かかりつけ医の紹介により家族が付き添って受診してい る。職員は医療的知識の習得に努め、発症の原因を追究して改善 し、重度化や再発の予防に努めている。来訪者の手洗いやうがいも きちんと実行され、感染症の予防にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日定時報告することで状態の把握に努めてもらっています。ま た、緊急時には即対応してもらえるような24時間体制での支援も あり、更に週1回の訪問看護師による支援もあり、安心した生活が 送れています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、必ず職員が同行し、経過報告を行っています。ま た、入院中には病院関係者や家族から情報をもらいながら、早期退 院につなげるよう努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に、家族の意向を確認、医療連携加算についても説明、同意 を得ています。また、看取りについては、家族とともに取り組む チームケアであることを説明、協力を得て取り組む体制が整ってい ます。ターミナルケアについては、職員間でも意思確認し、勉強会 のテーマに取り上げ、法人全体で取り組んでいます。 (外部評価) 事業所では、今までに数名の看取りを行った経験がある。昨年度、 職員が話し合って看取り指針を見直し、より充実した内容で誰が読 んでもわかり易く、丁寧な心遣いがみられるものになっている。入 居時に終末期ケアについて本人と家族に説明し、意向の確認を行っ ている。状態の変化に応じて医師が病状や治療方針を説明して話し 合い、家族の協力を得ながらチームで支援している。24時間医療 体制が整備されており、職員に安心感がある。また、毎年内部研修 を行い研鑽に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に、医師、看護師から直接指導を受けられる体制にあります。また、消防署で行っている心肺蘇生法や応急処置の講習会に参加したり、消防署立ち合いでの避難訓練の際にも指導を受けています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) すべての災害対策におけるマニュアルを作成しています。消防署立ち合いや自主的な避難訓練の際には、近隣住民に呼びかけ参加協力を得ています。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと、日中と夜間想定で避難訓練を実施している。夜間想定は、夜勤をする職員が順番で実施し、対応手順の確認をしている。2階から階下へは布団で包み込み、非常階段を降ろす実践的な訓練を行っている。運営推進会議で避難訓練を行い、家族や近所の住民、民生委員が参加しているが、地元消防団は時間的に難しい現状があり、事業所内部を見てもらっている。水や缶詰、菓子など備蓄品を用意し、定期的に交換している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室の際には、声を掛ける、ノックする等、配慮した対応をしています。また、必ず視線を合わせた声掛け、言葉を選びながらの会話を心掛け、できる方とは一緒に掃除や片付けを行っています。 (外部評価) 各居室に入る時は、ノックが聞こえにくい利用者には「入りますよ」と声かけをしている。トイレ誘導を行う際は近くで視線を合わせて話しかけ、利用者の誇りを傷つけないよう配慮している。また、居室やトイレ・風呂場の入り口に長いのれんをつるし、プライバシーの確保に努めている。呼称はさんづけで呼ぶようにし、職員は丁寧な言葉遣いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いを言葉に出来ない方は、表情、しぐさから読み取り、いつもと違うことに早く気づけるよう努めています。また、自己主張できる方には、職員への依存や職員の過剰介護にならないようよく話し合うように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合優先になりがちであることを常に意識できるよう職員間で注意しあっています。また、業務をこなす中で、入居者さんの希望を優先できるよう上手な時間の使い方を指導しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容室に出かけています。また、毎日の生活の中でもおしゃれを楽しめるようにコーディネートしたり、食べこぼしで汚れたままで過ごすことのないよう配慮しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 行事や季節に合わせてたり、栄養バランス、見た目も考慮、入居者さんの好物を取り入れたりしながらメニュー作りをしています。できる事はお手伝いしてもらいながら一緒に作る時間を大事にして、食事が楽しみとなる努力をしています。 (外部評価) 献立は職員が交代で立て、法人の栄養士にチェックしてもらっている。食材の配達はあるが、週2回は利用者と共に近くの商店に買い物に行き、調理は各ユニットで調理専任の職員が行っている。利用者とゲームをしながら好物を聞き出す工夫をして、献立に反映させている。利用者は、玉ねぎやジャガイモの皮むきの手伝いなど、できることを手伝い、職員も共に食卓を囲んでいる。誕生日には希望する料理と手作りのケーキでお祝いし、正月やひな祭り、花見、敬老の日、クリスマス等は特別な行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量については、個々に違うためチェックし、好みの物を提供するなど配慮しながら確保しています。また、栄養バランスには十分注意しながらのメニュー作成に取り組んでいます。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアを行い、仕上げを確認。義歯については、夜間洗浄剤につけておくなど清潔に保てるよにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導しています。毎朝排便を促すことで便失禁はほとんど見られない。尿失禁については、時間で誘導し、パットの使用量を減らす努力をしています。 (外部評価) 生きる意欲や自信の回復のために、おむつの使用を減らす工夫や排泄の自立にむけた支援を行っている。一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中はほとんどの利用者が布パンツやパットで過ごしている。夜間のみ紙おむつを使用する利用者也、排便はトイレでできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排便状態を把握、毎朝定時のトイレ誘導、腹部マッサージを行っています。また、食べる物での調整や、日中の運動量などにも気をつけています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に添えるように配慮できる事はしている。入浴時間の制限はあるが、毎日の入浴が可能です。 (外部評価) 一般家庭浴槽に週2～3回入浴することができる。毎日入浴を希望する利用者は毎日入れるよう支援している。身体機能に応じて、福祉用具を活用して安全に入浴できるよう配慮している。浴槽への移動が困難な利用者用に座シャワーを設備しているが、職員はできるだけ利用者に湯船に浸かってもらいたいと二人体制で介助している。ゆずや青りんご、バラ、桃の香りなどの入浴剤を使って、楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時々状況や体調に応じて臨機応変な対応に努めています。また、安眠できるような環境作りを支援しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の定期薬には、日付、名前、服薬時を記入。服薬前には、本人確認と薬に明記していることを確認。必要に応じて職員間でも確認しています。かかりつけ医には、毎日入居者の体調を詳細に報告、医師による指示や指導の元、異変の早期発見、早期対応できるよう様子観察しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 年間の恒例行事は、家族参加にて4回行っています。日々の生活の中では、お誕生日会、音楽療法、学習療法、おやつ作り、レクリエーションと飽きない工夫をして提供することで、楽しい時間となるように努めています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のパン屋さん、和菓子屋さん、ケーキ屋さん、スーパーなどを利用。買い物に出かける時間を作っています。家族の協力にて、自宅やお墓詣りに出かけることもあります。 (外部評価) 近所にはコンビニやスーパー、飲食店、パン屋、和菓子店、薬局と様々な商店が立ち並ぶ環境に恵まれている。職員はなるべく外出の機会を増やしたいと、少量でも毎日のように買い物に出かけ、天気の良い日は近くの公園を散歩している。運動会は坊ちゃんスタジアムで、家族会は市内のホテルにおしゃれをして出かける等、利用者は特別な外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) トラブルの原因となりかねないことを家族、本人に説明、了解を得て同意書にサイン、印を頂いて、お預かりしています。買い物に出かけた際には、本人が自分の財布から支払う支援をしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は自由に使える場所に設置。かけたい要望に応じて職員がサポートしています。手紙を書きたい方には、下書きを手伝うこともしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの壁面は、季節に合わせて張り替えています。居室の入り口には、表札や本人の写真を飾り、自室であることがわかるようにしてあります。また、リビング、自室ともに、風通りや寒さ予防のために、ベットやイス、テーブルの配置を変えて過ごしやすい工夫をしています。 (外部評価) 二方を窓に囲まれた明るいリビングにはテーブル席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。利用者が歩きやすいように配慮し、季節毎にレイアウトを変えるなど日差しや安全の工夫が見られる。廊下の壁面は運動会やもちつき、そうめん流し等の行事写真や、職員が工夫して作った昔話の絵が飾られており、利用者は物語を思い出しながら音読をしている。毎年鈴虫の贈り物があり、利用者は楽しみながら世話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングで過ごす場合、自分の位置が確立しているが、その時々で工夫をしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 以前から使用していた物を持ち込まれる方がいなくなっていますが、リビングの出窓に鉢植えを置き、水やりや手入れをして育てる支援をしています。また、定期的なシーツ交換や布団干しをこまめに行い、清潔で過ごしやすい工夫をしています。 (外部評価) 居室はエアコンと電動ベッド、洗面所、クローゼットが備えつけられており、温度湿度計があり個別に温度調整を行なっている。また、一人ひとり異なる表札が掛けられ、日中ドアを開けている利用者の居室は暖簾をかけてプライバシーに配慮している。クローゼットが広く、寝具を始め多くの物が収納できるため、居室内はすっきりとしている。馴染みの家具を持ち込み、孫から届いた誕生日プレゼントを飾っている居室もあり、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者さんが理解できるように大きな文字での表示や置き場所を工夫し、環境整備に努めています。	